

ゆめスマサミット活動報告書

学校名	(岡山市立高島中) 学校
活動目的	生徒総会で出た意見について、全校生徒が意見を出しやすい工夫をし、集まった声を学校生活の改善に活かすこと。
活動内容 ・実施時期 ・場所 ・参加人数 ・場面、方法 等	<ul style="list-style-type: none"> ・実施時期：R7年12月 ・場所：岡山市立高島中学校 ・実施内容：匿名アンケート ・対象：全校生徒 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>本校は徒歩通学であり、雨の日は大半の生徒が傘をさして登下校する。本校の傘立ては、各教室のベランダに設置している。そのため生徒たちは昇降口で傘の水滴を振り落とし、各教室に持って行くのだが、どうしても水滴を振り落としきれないこともあり、廊下や階段に水滴が落ちてしまうことも少なくない。そして、今年度6月に行った生徒総会で「傘立てを各教室から昇降口へ移動させてはどうか」という意見が出ていた。</p> <p>そこで全校生徒を対象に「傘立てを各教室から昇降口へ移動させることに賛成か反対か」というアンケートを実施した。これまで全校に意見を求めるときは意見箱に意見用紙を提出してもらっていたが、「目立ちたくない」「提出が面倒」と感じる生徒も多く、意見が集まりにくいという課題があった。そこで、Chromebook を活用した匿名アンケートを実施し、誰でも気軽に意見が出せるようにした。</p>
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>生徒総会で出た意見について、ゆめスマサミットで出た「Chromebook を使った匿名アンケートを行う」という案を活かしてアンケート実施したことで、これまでよりも多くの意見を集めることができた。また、賛成・反対のそれぞれの理由も、アンケートを通して知ることができ、中央役員として今後のための話し合いにつなげることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>今回は意見を集めるところまでしか実施できておらず、今後は結果を全校生徒に共有することが必要だと感じた。</p>
今後に向けて	<p>方法を工夫することでより多くの生徒の意見を集められることがわかった。今後もChromebook を活用した匿名アンケートを取り入れながら、誰もが気軽に意見を出しやすい学校をつかっていきたい。そして、集まった意見を生徒会活動や学校生活にしっかり反映させ、全校生徒が安心して過ごすことができるようにしたい。</p>

ゆめスマサミット活動報告書

学校名	(岡山市立操南中) 学校
活動目的	操南中 SDGs 宣言を大切にしながら、「ゆめスマサミット」で他校や高校生と情報・意見交換したことを踏まえ、①SDGs 推進活動と②生徒主体の学校づくりを推進する。
活動内容 ・実施時期 ・場所 ・参加人数 ・場面、方法 等	<p>○「新・操南祭」開催：9月25日・26日に本校体育館で開催された文化祭を企画・実施し、生徒会からこれまでのSDGs推進(環境・平和・人権などの部会)活動について、全校生徒約820名にプレゼンをステージ発表し、参加協力の拡大を呼びかけた。</p> <p>○「体育祭アンケート」実施：2学期末、よりよい学校行事を目指すために、生徒の意見を募集し学校運営に反映させる取り組みとして初実施した。アンケート結果も参考に、来年度の体育祭について職員会議にかけていただいた。</p> <p>○Chromebook 利用向上運動：2学期から「Chromebook の適切な利用」について、各クラスの学級・生活委員で呼びかけ・掲示物・校内放送などによる啓発活動を強化した。</p> <p>○国際交流活動：生徒会と有志が実行委員となり、各国と交流活動を行い、その取り組みを校内掲示や放送などで伝え、広い視野と地球市民の意識向上を目指した。 ・8月20日ミャンマー(オンライン交流会) ・12月16日ベトナム(教育視察団受入) ・1月23日ドイツ(文化交流会&授業) ・11月14日タイ(協定校オンライン交流)</p> <p>○SDGs 海・川・用水路大作戦：生徒会参加を増員し、地域や関係機関と連携し、学区の三番用水路のプラごみ回収と振り返り活動を行った。 【第2回】10月18日(土)生徒会新執行部約10名+有志生徒約60名+先生・地域・NPO・卒業生など合計約90名が参加、総重量約94kgのプラごみ、ビン・缶ごみを回収 【第3回】 2月7日(土)前回+企業やインフルエンサーなど50名以上が参加予定。</p> <p>○第2回地域協働学校運営協議会に参加：1月9日、第1部「対話の時間」に生徒会代表5名が初参加、教育目標と生徒会スローガンについて意見交換した。その様子や気づきは給食時間に全校放送で共有した。</p> <p>○生徒会リーダー研修会の開催：元主権者教育 NPO 代表の原田謙介さんを講師に①10月27日(リーダーシップ) ②12月23日(重点) ③1月15日(振り返り)と開催、リーダー像や活動内容の検討、アドバイス相談などを行った。</p>
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本サミットに思い切って参加してみたことで、高校生の高度な意見に触れ、やる気と意識を高めることができた。また、第2回地域協働学校運営会議でも、改めて「生徒主体」と「多様性の尊重」の重要性を実感した。 ・先輩方から引き継いだ「操南中 SDGs 宣言」のもとで、地域やいろいろな方々と活動に取り組んでいるが、生徒会としてもっと積極的に参加を促したり、発信したりすることへの意識を高めることができた。 ・課題としては、有志生徒が参加する生徒会活動のすそ野をどうやって広げていくかということ、取り組みや気づいたことを学校の中だけでなく外にももっと積極的に伝えていくことがある。また、身近な学校生活で気づくことへのアクションを強化する必要がある。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・新制服の導入や連絡協議会での対話を通じ、生徒が中心となる学校づくりを加速させたい。特に授業態度や学校行事の改善、Chromebook の使用ルールについては、サミットで得た他校の事例を参考に、生徒会執行部が中心となって操南中学校に最適な形を検討・実行する。 ・学校でよい活動や取り組みをしている仲間をもっと「ほめて」いいことを広げたい。



ゆめスマサミット活動報告書

<p>学校名</p>	<p>(岡山市立福南中) 学校</p>
<p>活動目的</p>	<p>・我が校のスマホの実態を調査するとともに、いろいろな趣味を調査、インタビューし、紹介することで、メディアの使用時間を減らすことを促す。 ・生徒の主体的な取り組みを通して、課題解決に必要な力を養う。</p>
<p>活動内容</p> <p>・実施時期</p> <p>・場所</p> <p>・参加人数</p> <p>・場面、方法</p> <p>等</p>	<p>●実施時期：11月～12月下旬</p> <p>●場所：岡山市立福南中学校</p> <p>●対象：全校生徒約400人</p> <p>●方法</p> <p>【全校生徒に対してアンケートの実施（タブレット）】</p> <p>「スマホの実態調査」</p> <p>・一日2時間以上スマホを利用する生徒の割合：70%超</p> <p>・スマホを制限する約束事やアプリを使っているか：はい54% いいえ46%</p> <p>実際に調査をして、本校でもスマホを長時間使用している生徒が多い現状があることがわかった。</p> <p>「趣味の調査」</p> <p>ゲームや部活動と答える生徒が多数を占めたが、チェスや推し活、スキーなどのスポーツといった趣味を書く生徒もいた。</p> <p>【アンケート結果からインタビュー】</p> <p>学年毎にインタビューを絞り、第1弾は2年生から始めた。</p> <p>「テニス」や「ギター」といった趣味の魅力を取材した。</p> <p>【生徒会新聞（趣味紹介）】</p> <p>インタビューした内容を新聞にまとめ、全校生徒へ配布するとともに、福南生徒会HPや廊下の掲示板にも掲示して紹介した。今後も継続してインタビューし、発行していく。</p> <div data-bbox="1050 465 1469 712" data-label="Figure"> </div> <div data-bbox="1198 882 1465 1081" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1283 1115 1465 1368" data-label="Image"> </div>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>ゆめスマサミットで得られた「スマホの時間を趣味の時間に替える」という案を参考にして、本校では活動をした。『事前のアンケート調査→整理→インタビュー→新聞作成→広報』という、活動の企画・実施のプロセスを生徒自身が実際に経験することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>夏季休業後の生徒会が新旧交代の時期であるため、実際に活動に取り組み始められたのが、11月になってからだった。まだ活動を始めてから日が浅いので、活動の効果は実感できていない。そのような結果が見えない中で、生徒が活動を振り返りながらどれだけ継続して活動できるか（PDCA）が、今後の課題である。</p>
<p>今後に向けて</p>	<p>事前の我が校のスマホの実態の調査結果と比較するために、趣味紹介後の調査も今後実施する予定である。生徒たちの活動がどれほど効果があるかはわからないが、自分たちで考え、企画し、課題解決に向けて活動したというこの経験がとても意味のあるものだと感じている。今後も自分たちで新たな取り組みを考えていききっかけになったと思う。</p>

ゆめスマサミット活動報告書

学校名	(岡山市立岡山後楽館中) 学校
活動目的	生徒が「本当にやりたいこと」を選べるよう、多様な種目を用意し、主体的な参加を促す。共通の楽しみを通じて、他学年との交流を図る。
活動内容 ・実施時期 ・場所 ・参加人数 ・場面、方法 等	<p>●実施時期：令和7年12月22日(月)</p> <p>●場所：岡山市立岡山後楽館中学校 各教室</p> <p>●参加人数：全校生徒</p> <p>●場面、方法</p> <p>【全校生徒に対してアンケートを実施 (タブレット)】</p> <p>参加したい種目についてのアンケート</p> <p>・Kafoot!、フルーツバスケット、UNO、トランプゲーム、人狼とワードウルフ、はあっていうゲーム、お絵かき伝言ゲームの7種目の中から自分が参加したい種目を Google フォームでアンケート</p> <p>・1時間×2セッション (計2種目に参加)</p>
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・満足度の向上 種目数を多くし、「希望制」にしたことで、多くの生徒が自分の興味がある活動に積極的に参加できた。各教室からは大きな歓声上がり、当初の目標通り「だれもが楽しめる」行事となった。・学年を超えた交流 「他学年と話すきっかけになった」という回答が多く、学年の枠を超えたコミュニケーションの場として機能した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・「考える時間が長くて、最終的に時間が押してしまった。」という指摘があった。進行のテンポを管理する難しさを感じた。・クイズ等の内容について「質問がマニアックすぎた」という意見があり、全員が置いていかれないような難易度の調整が必要だと感じた。
今後に向けて	今回のレクリエーション大会を通じて、全校生徒の笑顔を見ることができ、新体制としていいスタートを切ることができた。事後アンケートに寄せられた意見を一つ一つ確認し、良かった点は継続し、反省点は改善案としてまとめる。今回の経験を活かし、次回の学校行事も「自分たちが作り上げる行事」にできるよう、取り組んでいく。



ゆめスマサミット活動報告書

学校名	(倉敷市立倉敷第一中) 学校
活動目的	在校生から卒業生への感謝や激励の思いを伝える取組を通して、学校全体で卒業式に向けての気運を高める。
活動内容 ● 実施時期 ・ 実施時期 ・ 場所 ・ 参加人数 ・ 場面、方法 等	在校生から卒業生に向けたメッセージの掲示 ● 実施時期 ・ 2月上旬 メッセージ記入 ・ 2月下旬～ 掲示物の作成 ・ 3月上旬 掲示 ● 場所：倉敷第一中学校 教室棟1階 (給食場へ向かう渡り廊下の壁面) ● 参加人数：在校生約400人 ● 場面、方法 卒業式に出席しない在校生から、卒業生への感謝、ねぎらいの思いを伝えるために取組を考え、生徒会が企画して実施した。 桜の花びらなど、春の植物を模した紙に、各自卒業生に向けたメッセージを書く。 用紙(メッセージの枠)および記入例は、執行部がchromebookで作成、各クラスに配布。 集まったメッセージを、生徒会執行部および担当教員で取りまとめ、模造紙に貼り付けて、大きな桜の木の形にまとめた。 執行部の連絡や情報共有には、GoogleのClassroomを活用した。 記入例→
成果と課題	【成果】 昨年度の取組後には、3年生が立ち止まってメッセージを見たり、卒業式当日に写真を撮ったりしている姿を見ることができた。コロナ禍以降、卒業式に参加することができない在校生にとっても、卒業生への感謝を伝える機会ができて有意義だったと感じる。 【課題】 手作りでの時間がかかったこと。見通しを立てて早めに動くことで、執行部以外の生徒にも取組のアイデアや、一緒に作業するボランティアを募ることもできた。
今後に向けて	入学式や新入生歓迎会も、見通しを立てて全校生徒の声や思いを反映させた取組を実施していきたい。 卒業にあたって、卒業生へのビデオメッセージなどの実行できなかった案を記録し、来年度に引き継ぐ。



3年生へのメッセージの記入方法

黒い線が残らないように切り、文字はマイネームで書いてください。文字を書く向きは、お手本のようになるように気をつけて下さい。名前はフルネームをお願いします。

・桜 (1枚に6人) (1枚に5人)

3年生に喜んで貰えるように、心のこもった掲示を作りたいと思っています。みなさんの温かいメッセージをお待ちしています!

ゆめスマサミット活動報告書

<p>学校名</p>	<p>(玉野市立荘内中) 学校</p>
<p>活動目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちに楽しんでもらうことで、玉野市の活性化につなげる。 ・福祉をテーマとした体験活動や展示を通じて、共生社会の実現を目指す。 ・生徒が中心となって活動を進めることで、主体性を身に着ける。
<p>活動内容</p> <p>・実施時期</p> <p>・場所</p> <p>・参加人数</p> <p>・場面、方法</p> <p>等</p>	<p>●第3回桜花祭</p> <p>●実施時期：11月16日(日)</p> <p>●場所：玉野市立荘内中学校</p> <p>●参加人数：ボランティア生徒約120名+ボランティア教員15名+来場者約2000人</p> <p>●場面、方法</p> <p>①7月 有志が校長先生に桜花祭開催についての具申書を提出。</p> <p>②7月 全校クラスルームでメンバーを募集。</p> <p>③8月 協力してくださる地域の施設、団体を訪問、打ち合わせ。 (児童福祉施設、障害者支援施設、特別養護老人ホームなど)</p> <p>④9月～11月 各チームに分かれて活動開始。 放課後に集まるのは最小限とし、基本的には Google chat で打ち合わせを行う。 (運営、福祉体験、アダプテッドスポーツ、映えスポット、警備、緑日、ステージ)</p> <p>⑤主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店、施設、玉野市福祉政策課、IPU 環太平洋大学など、合計15の団体が屋台を出店。実行委員生徒が補助。 ・福祉体験：福祉用ベッド、電動車いす、歩行器など。(業者へ依頼) ・車いす用スロープの設置、トイレや部屋などのピクトグラムの掲示。 ・屋台：射的、輪投げ、ヨーヨー釣り、くじびきなど。(生徒が作成) ・荘内中マスコットキャラクター「つねたまちゃん」グッズの販売。 ・「常山日本遺産プロジェクト」鶴姫衣装の作成(被服科出身の方のご協力) 鶴姫伝説プレゼン&ショー、広報活動、鶴姫グッズの販売。 ・体育館ステージで、生徒のバンド演奏・ダンス、吹奏楽部の演奏、プレゼン発表、ミャンマー出身の方のダンスなどを実施。 ・ヤギのふれあい、アクアポニックス展示、福祉ネイルコーナー、バブルマシンなど。
<p>成果と課題</p>	<p>●成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆめスマサミットの話し合いをふまえ、生徒主体で準備を進めて成功に導くことができた。 ・小さい子どもから大人まで多くの地域の方に来場していただき、楽しんでもらうとともに、福祉について考えるきっかけにしてもらえたと思う。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン発表の参加人数を増やすこと。 ・飲食スペースの確保。ゆっくりくつろぎたい方や、車いすの方への配慮が足りていなかった。 ・会場の配置の工夫。混雑している場所と、人が少ない場所があった。 ・チケット販売の場所が混雑して、スムーズに渡すことができなかった。販売場所を増やしたい。 ・午前中にくじがなくなって、午後の人ができなかった。午前の部と午後の部を分ける。 ・リーダー同士、担当の先生、など連携がうまく取れないことがあった。 ・当日の連携や情報共有が不十分だった。
<p>今後に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージ発表者を増やせるように、たくさんの人に知ってもらえるように広報すること。 ・準備に時間がかかったので、計画的に行動していくこと。 ・バランスよくブースを配置すること。来場者数に応じた規模の調整。デッドスペースの活用。導線の確保。 ・1週間に1度くらい、リーダーが校長先生や実行委員長に報告することを決める。 ・Xを使い、他校や地域の方に呼び込みを行うなど、幅広い世代を意識した発信方法の検討。 ・幅広い年齢層が参加できるようなイベントの企画・広報を行う。 ・来年主体となる1・2年生に受け継いでいきたい。



ゆめスマサミット活動報告書

学校名	井原市立井原中学校
活動目的	井原中学校の生徒のスマホやネットの利用のしかたについて、現状と課題を把握し、適切な活用のあり方について考える。
活動内容 ・実施時期 ・場所 ・参加人数 ・場面、方法 等	<p>●実施時期：8月下旬～1月</p> <p>●場所：井原中学校</p> <p>●参加人数：全校生徒314人+保護者、学校医</p> <p>●場面、方法</p> <p>【全校生徒と保護者に対してアンケートを実施（生徒はタブレットで回答）】</p> <p>〔項目〕 ・スマホの所持の有無 ・平均利用時間 ・よく使うアプリ</p> <p> ・家庭でのルール ・スマホ使用での嫌な思い（自由記述）</p> <p> ・スマホで困っていること、心配なこと、聞いてみたいこと（自由記述）</p> <p>【学校保健委員会の実施】</p> <p>参加者： ・保体委員（1・2年） ・生徒会執行部 ・学校医 ・保護者 ・教職員</p> <p>①保体委員会の発表…井原中学校の生徒のメディア使用状況調査のまとめと課題について</p> <p>②グループディスカッションと話し合い内容の共有</p> <p>（グループごとに、話し合うテーマのカードを配布）</p> <p> テーマ1：自分や周りの人の実態、なぜこのテーマが問題になっているのか、心配されること、困っていること。</p> <p> テーマ2：このテーマについて、まずは何ができるか（学校でできること・家庭でできることなど）、どうすればよりよい使い方ができるか。</p> <p>【学校保健委員会での内容を共有】</p> <p>・学校保健委員会で発表したスライドの内容を保健室前に掲示し、全校生徒で共有した。</p>
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホやネットの利用のあり方について生徒が主体的に考えることができた。 ・トラブルへの対処方法について6割の生徒は「わかる」と回答しているが、保護者のほとんどは対処方法に不安を感じていることがわかった。 ・井原中学校の課題がわかった。 （使用時間、トラブルが起きた時の対処方法、使用モラル、ルール、身体や心への影響 等） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホやネットの使い方については、一部の生徒のみの話し合いではなく、全校生徒で家庭と協力して考えていく必要がある。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、ゆめスマサミットで出された意見をなかなか反映することができなかったので、来年度以降の活動に生かしていきたいと思った。 ・来年度は、情報委員会や保体委員会と連携して、スマホやネットの利用のあり方について考える学級活動（話し合い）を実施していきたい。 ・ネットトラブルの対処方法について、講師の方に講演をしてもらう。 （保護者も一緒に聞くことができるようにする。）



ゆめスマサミット活動報告書

<p>学校名</p>	<p>(奈義町立奈義中) 学校</p>
<p>活動目的</p>	<p>生徒主体で学校生活のきまり（校則）を見直し、生徒ひとりひとりの判断力や行動力を育成する</p>
<p>活動内容</p> <p>・実施時期</p> <p>・場所</p> <p>・参加人数</p> <p>・場面、方法</p> <p>等</p>	<p>ルールリデザインプロジェクト ～学校生活のきまりを見直そう～</p> <p>【実施時期】 11月～12月</p> <p>【場所】 奈義中学校（各教室・ナギヒロバなど）</p> <p>【参加人数】 奈義中学校全校生徒 160名</p> <p>【活動の詳細】</p> <p>① 生徒指導担当の教員から活動の目的と見通し、生徒会からゆめスマサミットで感じたことや活動の企画の経緯について、全校生徒に向けて伝える。</p> <p>② 「学校生活のきまりは何のためにあるのか」「プロジェクトを通してどんなきまりにしたいか」について各クラスで1人1人が考えをもつ。</p> <p>③ 縦割り班で、それぞれのきまりがある理由を考えたり、変更したい点があれば理由とともに記録したりする。</p> <p>④ 縦割り活動で出た意見を評議委員・執行委員が集約する。 執行委員会でそれぞれの意見を検討し、新しい生活のきまりに反映すべきものと、変更が必要ないものに分類する。</p> <p>⑤ 新しい生活のきまりに反映したいと執行委員が考えたものについて、変更の必要性について教員との会議ではたらきかける。</p> <p>⑥ 全校生徒に向けて、ルールリデザインプロジェクトの報告会（これまでの取り組み・意見が出たが執行委員会判断で採用しなかったきまりの存在意義の確認・新しい学校生活のきまりの詳細の報告）を行う。</p> <p>⑦ 臨時生徒総会で生徒の承認を得る。</p>  
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となって活動したことで、生徒の達成感や帰属意識を引き出すことができた。 意見が出たが採用されなかった案についても、報告会の中で文言の意味を整理したり、意義を確認したりすることで、曖昧になっていた生徒の認識を明確にすることができた。 生活のきまりについて見直す機会が確保できていなかったため生じていた教員同士の捉え方の差異の解消にもつながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 執行委員以外の生徒の多くは生活のきまりの実態を検討することに終始してしまった。その前提にあるきまりを守る意義などについても考えさせる仕掛けが必要だった。
<p>今後に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> くつ下のきまりについて、執行委員と教員の話し合いでは方向性が定まらず、全校生徒にアンケートを実施した。回答の扱いを生徒と再度検討していく。 持続した活動にするために、今後の取り組み（生徒総会の在り方など）も検討する必要がある。

ゆめスマサミット活動報告書

学校名	(里庄町立里庄中) 学校
活動目的	1 スマホやネットの利用について考えるため。 2 スマホ依存、いじめ、コミュニケーショントラブルを防止するため。
活動内容 ・実施時期 ・場所 ・参加人数 ・場面、方法 等	<ul style="list-style-type: none">・実施期間 9月～12月・場所 各クラスの教室・参加人数 全校生徒・場面 給食時間中・方法 動画を作成して各学級で流す。 
成果と課題	(成果) <ul style="list-style-type: none">・スマホやネット利用を見直すきっかけになった。 動画をみることで、自分のスマホの使い方を振り返ることができ、スマホを使う上での危険性や注意点、正しく使うための理解が深まった。・スマホ依存やいじめ、防止への意識が高まった。 動画で具体例を示したことで、日常的に気をつけようとする姿勢が強まった。 (課題) <ul style="list-style-type: none">・周りの人と意見の交流をする時間を設けることができなかった。・動画制作のときに実際にスマホサミットに参加した委員長と話すことができなかった。
今後に向けて	今回の動画制作と視聴を通して、生徒自らがスマホ・ネット利用について考えるきっかけをつくることができた。今後は、今回得た気づきを日常の行動に結びつけられるよう、具体的な実践例や場面ごとの対処法を学ぶ機会を増やしていきたい。また、動画を見た生徒同士で意見を交換したり、困ったときの対応について話し合ったりする場を設けることで、理解を深める工夫も必要である。さらに、学校生活や家庭で直面する具体的な場面を取り上げ、どのように行動すべきかを考える活動も取り入れていきたい。